

問合せ 幼児教育・保育課 (☎76-1130)

病児保育事業

子どもが病気、でも…

病児保育事業をご存知ですか？病児保育事業とは、病気の子どもを家庭でできない場合に利用できる制度です。対象は生後6カ月から小学6年生までのお子さんです。

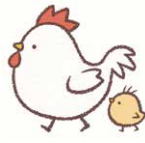
就労・傷病・事故・出産・冠婚葬祭等の事由により、どうしても病気の子どもをそばにすることができない。

そんな時に慌てず、少しでも不安な気持ちを解消できるよう、ぜひこの機会に調べてみませんか？

詳細は市・各クリニックのホームページまたは電話にてご確認ください。

クリニックホームページ

病児保育室
ポケットクラブ



市ホームページ



病児保育室
ゆうかり

事前に「施設等利用給付認定」を取得していると、病児保育利用料の無償化分が返還されます。詳しくは市にお問い合わせください。

小木こどもファミリークリニック
病児保育室ゆうかり (☎090-3830-6246)

利用日・利用時間

月・火・水・金曜日 午前8時30分～午後5時30分
※延長時間 午後6時まで
土曜日 午前8時30分～午後12時30分
※延長時間 午後1時まで

休業日

木・日曜日、祝日
お盆休みや年末年始などのクリニック休診日

はやしこどもクリニック
病児保育室ポケットクラブ (☎41-0999)

利用日・利用時間

月～金曜日 午前8時30分～午後5時30分
※延長時間 午後6時まで

休業日

土・日曜日、祝日
お盆休みや年末年始などのクリニック休診日

ブックレビューボタン vol.66 ~私のおすすめの本を紹介~



〜やがて訪れる日に〜

医療現場の本音と家族の本音に迫る

著者は医師であり、高齢者対象の在宅訪問診療に従事していました。医療の現実を抉り出す作家として知られています。

「芥川症」とは、あの有名な芥川龍之介の小説の題名をパロディにして、現代の病院に蘇らせた短編小説七作です。クモの意図、病院の中、耳、バナナ粥等々。

さて今社会問題になっているのが増え続ける老老介護です。すでに老親を看取った人、介護真只中の人、やがて夫婦どちらかに巡ってくるかもしれない認知症や老人性の病。各家庭の事情は百人百様です。終末医療が必要かどうか、医師の

本音と家族の本音。そして目の当たりにする医療現場での医師と看護師の役割に立ちふさがる壁などを、赤裸々に見せつけられる日がやつてくるかも知れませんが、実話を元にしたこの小説がヒントを与えてくれるかも知れません。

図書館で本を選んでいて、目に留まったのがこの本のタイトルでした。「芥川賞」の間違いではないのかと(笑)。タイトルで読み手を引き付けるとは「いいこと」を言うのでしようね。

小説が大好きで図書館通い十年にもなりますが、初めて知った作家さんでした。今ではこの一冊から始まった著者の作品を、次から次へと読み漁っています。ここ暫くは久坂部ワールドにはまっています。

今回のレビューア



▲下尾 由子さん

市文芸協会の郷土総合文芸誌「駒来」の編集人をしています。50年続いた月刊誌を絶やさないうよう頑張っています。